

今回のテーマ

一般社団法人マチビトの事例から“組織づくり”について考える

第3回は、大橋で一般社団法人 街×人（マチビト）を立ち上げた渡邊さんの事例紹介やインタビューを軸に、総勢21名で開催しました。



あらためて、コーディネーターの木藤亮太さん（(株)ホーホウ 代表取締役）より、前回の箱崎商店街の事例でもあった“応援しあえる関係性づくり”について振り返りを行いました。

今回は一般社団法人 街×人の事例から、“組織づくり”について考えました。

プログラム

- ①オープニング
前回の振り返り
- ②一般社団法人 街×人の事例紹介
まちづくり法人を立ち上げた経緯
渡邊さんにインタビュー
- ③応援団について考えるワーク
どんな応援があれば良いのか
(組織の役割、サポートとしての役割について)
- ④クロージング
まとめ

渡邊さんのこれまでの活動は？

渡邊さんが、大橋の商店街に携わるようになったのは、30歳の時に当時会長であったお父様から商店街の会長を引き継ぐことになったのがきっかけだそうです。



様々なイベントを行なっていく中でイベントが大好きになった渡邊さん。実際に企画して実行したイベントの事例をたくさん紹介してくださいました！

- ・ 大橋サマーフェスティバル（2007年）：駅前にプロレスのリングを立てて、昼間は子供が踊ったり歌手が歌ったりして楽しみ、夜はプロレスラーを呼んでプロレスを行うイベント。
- ・ 楽しかおおはし：サマーフェスの翌年から行ったイベントで、それぞれの月にテーマを決めてイベントを実施。
- ・ 6大学学園祭PRイベント：それぞれの大学の学園祭のPRのためにステージでお披露目するイベント。香蘭女子短期大学と留学生の民族衣装と浴衣のコラボを学生が企画して行ったりするなど、他大学との交流もできた。
- ・ 大橋ハロウィンコスプレフェスティバル：今年10年目を迎えるイベント。今年は前半に地域住民がコスプレ、後半はコスプレイヤーによる本格的なコスプレのイベントを開催。
- ・ 副都心クリスマスマーケット：香椎と合同開催し、初めて2つの商店街で補助金の申請をして実施したクリスマスマーケット。

マチビトってどうやってできたの？

続いて、マチビトを立ち上げた経緯について話を聞きました。今まではイベントの補助金などを市役所からもらって主催していたけど、その後地域で自走してほしいと言われたことが法人設立のきっかけ。商店街は予算的にも人手的にも受け皿がなく、できないなら作れば良いと思い、一般社団法人マチビトを作ったそうです。過去のイベントで繋がった仲間7人（ほぼ大橋以外の人）に声をかけて立ち上げ、立ち上げ後のイベントでは、市からの補助金を使っていないとのこと、！これには参加者の皆さんも驚き！メンバーはほとんどボランティアで関わってもらっており、楽しむ気持ちが強い人たちなので、今までも続けることができているそう。本当はイベント以外のお金を生むようなこともしたいけど、気持ちが先走って採算性がない人が多い。だから大好きだしやめられないとメンバーへの愛も熱く語っていただきました。

商店街には緩やかな連携が必要！

後半は応援団の仕組みについて考えるワークショップを実施。3つのグループに分かれて商店街の応援団が組織となった時、その組織の役割やできることについて話し合い、発表を行いました。



福岡大学 飛田准教授 | 組織とは、共通目的、コミュニケーション、協働することだとされている。場所に縛られず、3つの条件を満たした組織が公的な支援・サポートを受けられるような仕組みが大事になってきているかもしれない。距離だけじゃない、香椎と大橋のような連携のように、商店街が緩やかな連携をしていくことは今後重要になるかも？

まずは応援（実践）してみよう!!!

木藤さん | 今回組織・チームなどを作ろうという話をしていたが、法人は作ろうとするとできないと改めて感じた。今後、これ以上はどういう法人を作るのかという話をする必要はなく、試しに応援を先にしてしまった方が良いのでは？と思った。協働してコミュニケーションしていった先に法人を作る話が出てくるかもしれないし、どんなチームが必要なのが見えてくる。実行した後に経験が積み上がっていくと最初から探していたものに繋がっていくかもしれない。いろんなものを応援していくという形は変わらないが、まずは実際に応援（実践）してみましょう！

